

秋田県立大学本荘キャンパスコラボレーションスペース整備業務仕様書

1. 件名

秋田県立大学本荘キャンパスコラボレーションスペース整備業務

2. 背景・目的

秋田県立大学デジタルキャンパス構想の一環として、学生が自発的に集い、気軽なコミュニケーションや偶発的な交流が生まれるコラボレーションスペースを整備する。特定の用途に限定しない柔軟な利用を前提とし、学生が主体的にスペースを活用できる環境を整備することを目的とする。利用形態としては、学生同士または学生・教職員による協働学修、PBL(課題解決型学習)等の共創活動やキャンパスを越えた自由な交流・連携を日常的に可能にするハイブリッド環境としての活用を想定する。

本件では、単なる什器・機器の納入にとどまらず、学生が自然に立ち寄り、少人数の対話、グループワーク、遠隔交流等へ滑らかに移行できる空間、ICT、運用の一体的な提案を求める。

3. 納入場所

秋田県立大学 本荘キャンパス メディア交流棟 カフェテリア 2 階
(秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4)

4. 納入期限及び工程管理

令和 9 年 3 月 31 日までに最終検収を完了すること。施工・搬入・調整は、授業、入学者選抜、大学行事及び施設利用への影響を最小化する工程とし、詳細は発注者と協議のうえ決定すること。

5. 整備対象及び前提条件

(1) 整備対象箇所

カフェテリア2階(メディア交流棟2階、床面積:約 260 m²)

(2) 基本方針

既存環境、利用者動線、電源・ネットワーク条件、消防・建築関係法令等を踏まえ、空間デザイン、ICT 機器、家具、音環境、運用方法を一体的に設計すること。

(3) 常時相互接続

本学が別途調達する、他キャンパスと常時接続し、相互の空間を共有するためのコミュニケーションパネル等について、受注者は、「【別紙】常時相互接続コミュニケーションパネル想定受入条件」を参照の上、当該設備の設置に必要な電源、LAN 接続環境、設置スペース及び配線経路を確保するとともに、円滑に設置・接続できるよう、大学及び別途調達業者との協議・調整に対応すること。

(4) 標準会議アプリとの親和性

協働学修、PBL、教職員との打合せ、学外者を含む交流等で、Microsoft Teams、Google Meet、Zoom、Webex 等の標準会議アプリを利用できる構成とすること。専用クラウドや独自アプリの利用を提案する場合も、日常運用が特定ベンダーに過度に依存しないよう、汎用的な接続手段及び代替手順を示すこと。

(5) ネットワークの責任分界

学内既設 LAN 及びインターネット回線は発注者が提供する。受託者は、本業務で導入する機器、室内配線、無線又は有線接続、表示・音声・制御に関する設計、設定及び動作確認を担う。

(6) 既存施設への配慮

既存建築、内装、設備、什器、動線、避難経路、カフェテリア等の周辺機能に支障を生じさせないこと。施工に伴う騒音、粉じん、臭気、搬出入、利用停止期間については、授業・試験・行事等に配慮した工程を提案すること。

(7) 提案の自由

本仕様書の必須事項を満たす範囲で、空間構成、機器構成、什器、仕上げ、UI、運用方法、保守方法は提案者の裁量とし、検収で実証可能な自由提案を歓迎する。

6. 要求事項

(1) 既存什器の撤去

既存のテーブル・椅子等は撤去を前提とし、発注者が対応する。また、配膳台や食器・給水設備設置台については原則既存のままとするが、受注者が撤去することを前提として、当該スペースを整備対象に含めて提案することは差し支えない。

(2) 空間デザインとICTの一体化

カフェテリア2階の空間特性を踏まえ、空間デザインとICT機器を組み合わせ、多様な利用シーンを想定したゾーニングを行うこと。学生が自然に集まるラウンジ性と、協働学修・PBL等に必要な作業性を両立すること。

(3) 展示スペース等としての活用

空間の一部又は全部を、企業等を招いた展示スペースやポスターセッションの場としても活用できる構成とすること。そのため、設置するICT機器や什器類は一部又は全部を可動式とすること。

(4) 空間コンセプト

学生が予約の有無にかかわらず立ち寄りやすく、短時間の会話、共同作業、発表準備、遠隔交流、展示・発表等に柔軟に使える空間とすること。特定の授業、団体又は用途に限定される固定的な設計は避けること。

(5) ゾーニング

静かな個人作業、少人数の対話、グループワーク、遠隔接続、展示・発表、待ち合わせ等の複数の利用シーンを想定し、音、視線、動線、電源、ICT機器へのアクセスを踏まえたゾーニングを提案すること。

(6) ICT機能

可動式モニタ、画面共有、外部入力、カメラ、マイク、スピーカー等を適切に組み合わせ、学生が専門的な操作知識を要せず利用できる構成とすること。

(7) 操作性

日常的な利用開始、画面共有、音量調整、キャンパス間接続(「5. 整備対象及び前提条件」の「(3)常時相互接続」に示す接続を除く)、終了、復旧を、できる限り少ない操作で実行できること。利用者向けの簡易手順、管理者向けの復旧手順及び異常時の連絡フローを整備すること。

(8) 音環境

周辺利用者への影響を抑えつつ、ディスカッション、遠隔会話、展示説明等が聞き取りやすい音環境を整備すること。

(9) 照明環境

既設照明を活用しながら、壁面、柱、什器等に設置する間接照明又は局所照明等を適切に組み合わせることにより、個人学習、グループワーク、発表及び展示等に支障がない明るさを確保すること。

(10) レイアウト可変性

一部又は全部の什器、モニタ、ホワイトボード等は、利用者が安全かつ容易に移動又は組み替えできることを基本とする。この場合、移動、収納、原状復帰、充電、点検等の方法を明記すること。

(11) 安全性・耐久性

学生が日常的に利用することを前提に、転倒防止、落下防止、配線処理、角部処理、耐荷重、清掃性、保守性、盗難・紛失対策に配慮すること。通路上の露出ケーブルは原則として不可とし、やむを得ない場合は常設プロテクタ等により安全を確保すること。

(12) 意匠・統一感

既存空間と調和しつつ、デジタルキャンパス構想を体感できる先進性、居心地、視認性を備えた意匠とすること。素材、色彩、照明、サイン、機器の見え方を含めて提案すること。

(13) アクセシビリティ

多様な学生が利用しやすいよう、通路幅、車椅子利用、視認性、音量、表示文字サイズ、案内表示、利用手順の分かりやすさに配慮すること。

(14) ライフサイクル

5年間の運用を前提に、製品終息・保守終了の見通し、消耗品、設定バックアップ、台帳、更新時の停止時間低減、代替機運用の方針を示すこと。

(15) 保証・保守

1年無償保証を付すこと。保守を提案する場合は、受付時間、一次応答、オンサイト対応、復旧目標、点検範囲、代替機、費用を明記すること。

7. 基本設計

企画提案書には、以下の基本設計資料を必ず添付すること。提出体裁、部数、提出期限等はプロポーザル実施要領に従うこと。

(1) 空間コンセプト

設計思想、利用者体験、導入効果、運用イメージを示すこと。

(2) 平面レイアウト図

什器、ICT機器、展示スペース、電源、動線、収納等を図示すること。また、新設する間接照明及び局所照明等の配置を示すこと。

(3) ICTシステム構成図

表示、音声、カメラ、制御、ネットワーク、標準会議アプリ利用時の入出力経路を図示すること。

(4) 機器・什器リスト

主要機器、什器、照明器具、内装材、数量、型番又は同等仕様、設置場所、保守条件、消耗品を示すこと。

(5) 完成イメージ図

内観パース、写真合成モックアップ、立面スケッチ等により、色彩、質感、機器の見え方、利用シーンが分かる資料を提出すること。また、通常利用、協働学修、PBL、遠隔交

流、展示、イベント等の利用シーンごとの使い分けを示すこと。

(6) 工程表

設計、発注、製作、撤去、搬入、施工、設定、調整、試験、利用者説明、検収の工程及び施設利用停止期間を示すこと。

8. 検収における KPI と検証方法

検収時に適用する KPI(目標値)は次のとおりとする。

(1) 常時接続用コミュニケーションパネルの受入環境

別途調達する常時接続用コミュニケーションパネル等の設置及び接続に必要な電源、LAN 接続環境、設置スペース並びに配線経路が適切に整備され、当該設備の受入れに支障がないことを確認する。

(2) 利用開始

主要な利用シーンにおいて、通常利用者が簡易手順に従い、画面共有、音量調整、遠隔接続(「5. 整備対象及び前提条件」の「(3)常時相互接続」に示す接続を除く)、終了まで実行できること。

(3) 表示

各ゾーンの代表位置から、提示資料、サイネージ、遠隔映像等が十分に視認できること。文字サイズ、視距離、輝度、反射対策の根拠を示すこと。また、既設照明並びに新設した間接照明及び局所照明等を点灯した状態で、個人学習、グループワーク、発表及び展示等に支障がない明るさが確保されていること。

(4) 音声

遠隔会話、ディスカッション、展示説明等において、話者の声が明瞭に聞き取れ、周辺への過度な音漏れを抑制できること。

(5) レイアウト変更

可動家具、可動式モニタ等について、通常利用者又は管理者が安全に移動、固定、収納、原状復帰できること。

(6) 安全・配線

通路上の危険な露出配線がなく、転倒、落下、過熱、干渉、避難経路阻害がないこと。

(7) 展示利用

展示物、説明者、来訪者動線、電源、表示機器が支障なく機能すること。

(8) 運用・保守

管理者向け手順、設定バックアップ、機器台帳、問い合わせ・復旧フロー、保守条件が整備されていること。

9. 納品物

完成品は、検収合格状態の本荘キャンパスコラボレーションスペース一式とし、成果物として以下を納品すること。

(1) 設計図面一式(平面、配置、電源、配線、ネットワーク、家具、内装、サイン、必要に応じ立面・断面)

(2) ICT システム構成図、機器接続図、設定情報、アカウント・管理情報の引継ぎ資料

(3) 機器・什器・内装材台帳(型番、数量、設置場所、製造番号、保証、保守、消耗品、ファームウェア等)

(4) 設定バックアップ、初期設定値、復旧手順、更新手順

- (5) 利用者向けクイックガイド、管理者向け運用・保守マニュアル、短尺操作動画又は同等の説明資料
- (6) 検査・測定記録、KPI 検証結果、施工写真、完成写真
- (7) 変更履歴及び最終仕様書

10. 権利の帰属

- (1) 本業務における成果物(完成記録一式、各種設定データ、図面、原稿、マニュアル、UI レイアウト、写真・動画・音声サンプル等)の著作権(著作権法第 27 条及び第 28 条に規定する権利を含む。)、原版、電子データその他一切の権利は、公立大学法人秋田県立大学に帰属する。
- (2) 受注者は、本学が前項の成果物を学内外の広報・資料作成・授業運営・将来の更新等のために再利用・改変・複製等を行うことを承諾する。
- (3) 成果物の第三者への使用許諾は、発注者(公立大学法人秋田県立大学)が行う。
- (4) 受注者は、当該成果物に関し著作権者人格権を行使しない。
- (5) 成果物やその構成素材に含まれる第三者の著作権、肖像権、商標権、著作隣接権、利用規約その他一切の権利についての交渉・処理は受託者が行い、その経費は受託料に含む。

11. その他

- (1) 受注者は発注者と密接に連絡を取り、その指示に従うこと。
- (2) 受注者は発注者と協議のうえ、最終仕様・レイアウト・UI を決定するものとする。
- (3) 本業務に関わる必要経費は、すべて契約金額の範囲内で処理すること。
- (4) 受注者は必要に応じて業務の一部を再委託できるものとし、その場合は、事前に発注者へ協議し、同意を得ること。
- (5) 受注者は本業務(再委託を含む)を通じて知り得た情報を機密情報として扱い、目的外利用・第三者への開示・漏えいを禁ずる。契約終了後も同様とする。
- (6) 受注者は本業務(再委託を含む)を履行する上で、著作権、肖像権、個人情報、電気通信事業法、電波法、消防・建築関連法規等の関係法令を遵守すること。
- (7) 素材(アイコン、画像、テンプレート、フォント、BGM 等)を使用する場合は、権利処理を受託者の責任で行い、その経費は受託料に含む。本学保有素材は必要に応じて提供する。
- (8) 使用する画像・動画・デザイン等については、既存作品等からの盗用を行わないこと。
- (9) コラボレーションスペース内への広告表示は不可とする(機器ロゴ等の常識的表記を除く)。
- (10) 本仕様書に定めのない事項については、受注者・発注者が相互に協議のうえ決定する。

【別紙】常時相互接続コミュニケーションパネル想定受入条件

項目	想定受入条件
導入数量	1 台
想定システム	RTC テックソリューションズ「お隣オフィス」。LoopGate 専用端末、大型ディスプレイ、カメラ、マイク・スピーカー、リモコン、設置金具又はスタンド、接続ケーブル等で構成
ディスプレイ	70 型程度を基本とし、最大 75 型程度を想定。フル HD 以上
設置方法	床置き型スタンドによる設置を基本とする。
機器外形	設置状態で幅 1,800mm、奥行 900mm、高さ 2,200mm 以内を想定
必要スペース	幅 2,000mm、奥行 1,200mm、高さ 2,300mm 以上を確保。機器前方には、カメラ撮影、会話及び保守作業のため 2,000mm 程度の空間を確保
想定重量	ディスプレイ、スタンド及び周辺機器を含めて総重量 150kg 以下を想定。床荷重、転倒防止及びキャスター固定に配慮
電源	AC100V、50／60Hz、15A の非連動電源を 1 回路。接地極付きコンセントを 4 口以上設置し、想定電源容量は合計 1,000VA 以内。照明等と連動して遮断されないこと
LAN	有線 LAN を基本とし、RJ45 情報コンセントを 2 口設置(使用 1 口、予備 1 口)。配線はカテゴリ 6A 以上とし、1000BASE-T に対応
配線経路	電源及び LAN の配線経路を確保し、通路上に露出配線を生じさせないこと。電源線と通信線は適切に分離し、将来の配線交換が可能な配管、モール又はケーブルダクト等を設ける
映像環境	ディスプレイへの直射日光、照明の映り込み及び強い逆光を避け、離れた位置からも映像を視認できる配置とする
音響環境	カメラ及びマイクの集音範囲を妨げず、周辺の騒音やスピーカー音の反射・回り込みを抑えられる配置とする
責任分界	本業務では設置スペース、電源、LAN 接続口、配線経路及び必要な受入環境を整備する。「お隣オフィス」本体及び周辺機器の調達、搬入、設置、接続、設定、調整、動作確認は別途調達業務に含める